

教えて♪ もくじい。シリーズ②

つなわき りゅうみょう しょうにん

綱脇龍妙上人とハンセン病



昭和37年(1962)頃の綱脇上人

綱脇龍妙上人は、日本人として初めての民間のハンセン病療養所、『深敬園(じんきょうえん)』をつくったお坊さんです。明治9年(1876)、福岡県宗像に生まれ、60年以上もハンセン病患者の救済に努めました。その功績により昭和43年(1968)、当時の身延町より名誉町民の称号を贈られました。



ワシに負けず劣らず良い笑顔のお人じゃのう。
深敬園は久遠寺三門の西、身延川を渡った場所にあるんじゃ。

←もくじい。は、身延町立木喰の里微笑館のオリジナルキャラクター

Q：ハンセン病ってどんな病気？

A：らい菌の感染によりおこる病気で昔は「らい病」、「ハンセン氏病」とも呼ばれていました。ハンセンは、明治6年（1873）、らい菌を発見したノルウェーの医師の名前です。鼻や咽喉から感染するといわれますが、多くの方は免疫があり感染しません。免疫の少ない人が感染し、発症すると独特な腫瘍（しゅよう）が体や手足にできて変形し、眉毛や髪の毛が抜けてしまったり、進行すると視覚障害や、痛い・熱い・冷たいなどの知覚障害が現われます。栄養不足、過度の疲労やストレス、不潔な住環境、非衛生的な衣服など負の要因が重なると発症しやすいといわれます。今は薬剤の投与で感染しても初期なら完治し、悪化していても進行を止めることができます。



ハンセン病患者



厚生労働省 2021
「ハンセン病の向こう側」より

②

不治の病であった昔、感染者は外見からも分かるから様々な差別を受けたんじゃ。それにこの病気は遺伝するとも考えられておって、感染者の家族まで差別の対象にされておったそうなの・・・。



ハンセン病の歴史を知ろう①

ハンセン病と日本人との関わりは古く、奈良時代(今から約1,300年前)に編纂された『日本書記』に「白癩(びゃくらい)」の記述をみることができます。鎌倉時代(今から約800年前)には諸国を巡り、念仏踊りを広めた一遍上人(いっぺんしょうにん)、その生涯を描いた『一遍聖絵(下絵参照)』において、「癩」患者と思われる人が見られます。また、聖徳太子の時代に仏教とともに伝来した法華経には、法華経や法華経を信仰する人の悪口を言うと「癩」になると記されており、仏教の普及が同時に、「癩」に対する差別と偏見の拡大につながったともいわれます。



赤丸の中の顔に布をまいた人たちが癩患者と考えられておる。念仏踊りを見物する貴人と物乞いをする癩患者が、塀を隔ててなんとも対照的に描かれておるのう。ちなみに宮崎駿監督のアニメ映画作品、『もののけ姫』にも癩患者と思われる人々が登場しておるのじゃ。



ハンセン病の歴史を知ろう②

日本では近代に至るまで、ハンセン病は遺伝すると誤認されていました。19世紀に伝染病であることが分かると、国は強制的な隔離政策を実施、戦後まで続きました。

○近代以降のハンセン病問題の歩み（戦前）

- 明治6年(1873) アルマウエル・ハンセンがらい菌を発見。
- 明治33年(1900) 内務省のハンセン病患者実数調査
30,359人
- 明治39年(1906) 深敬園が開設される。
- 明治40年(1907) 法律「癩予防ニ関スル件」が制定される。
- 明治42年(1909) 公立(都道府県連合)療養所が全国5か所に
開設される。
- 大正5年(1916) 療養所長に入所者への懲罰を認める懲戒検
束権を付与。
- 昭和5年(1930) 国立療養所第1号として岡山県に長島愛生
園が開設される。
- 昭和6年(1931) 「癩予防法(旧法)」が制定される。
- 昭和13年(1938) 群馬県栗生楽泉園に「特別病室(重監房)」設置。
- 昭和11年(1936) 「無癩県運動」が本格化する。
- 昭和18年(1943) 新薬プロミンのハンセン病治療への有効性
が発表される。
- 昭和20年(1945) 第二次世界大戦が終結。



1940年代初頭までは、インド原産の大風子(だいふうし)の実から作られた大風子油を筋肉注射するという治療が広く行われておったが、注射時の激痛、症状が再発しやすい、有効性が不確かなどの問題があったそう。対して、プロミンはアメリカ・カーヴィル療養所のファジェイ博士により、有効性が報告され、この発見は「カーヴィルの奇跡」と呼ばれたそうじゃ。

ハンセン病の歴史を知ろう③

○近代以降のハンセン病問題の歩み (戦後)

- 昭和22年(1947) 日本でもプロミンの使用開始。
- 昭和23年(1948) 優生保護法でハンセン病も指定される。
- 昭和26年(1951) 全国ハンセン病患者協議会(「全患協」)が結成される。
- 昭和27年(1952) 世界保健機関(WHO)が隔離政策の見直しを勧告。
- 昭和28年(1953) 「らい予防法(新法)」が制定される。
- 平成4年(1992) 深敬園が閉鎖される。
- 平成8年(1996) 「らい予防法」が廃止される。
- 平成13年(2001) 熊本地裁で、「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟に対する国の責任を認める判決。
- 平成15年(2003) 熊本県の温泉でハンセン病回復者宿泊拒否事件が起こる。
- 平成20年(2008) ハンセン病問題の解決の促進に関する法律が制定される。
- 平成22年(2010) 国連総会でハンセン病差別撤廃決議が採択される。

● 平沢保治氏(国立療養所多摩全生園入所者自治会前会長)の証言
私たちは、せめて治った人は出して欲しかった。1953年のらい予防法の闘いに取り組んで、私も身体の不自由な人たちと一緒に若気の至りで、早朝深夜、国会に座り込みをかけました。でも、社会の誰一人として私たちを支援する人たちはいなかった。そうでしょう。私たちを取り巻く周りには白衣を着て消毒器を持った人たちがいるのですから。

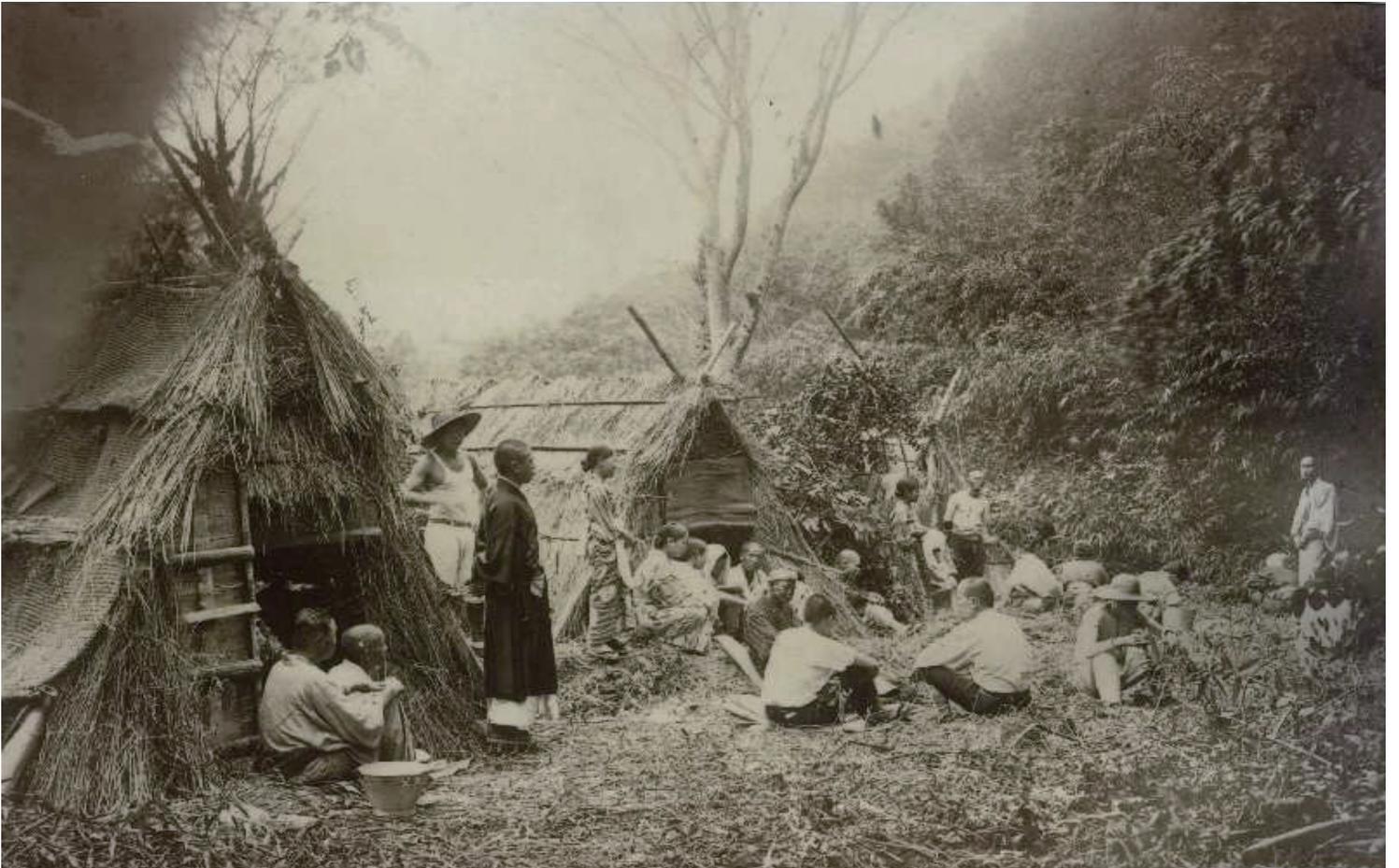
平成27年度法務省人権啓発教材

「ハンセン病問題証言集」より

深敬園の設立

綱脇上人が身延山久遠寺を初めて訪れた明治39年(1906)30歳の夏、当時お寺の周辺には多くのハンセン病患者が信仰による救いを求めて集まり、参拝客から施しを受けながら、身延川沿いの粗末な小屋に住んでいました。綱脇上人は河原に住む一人の少年と出会い、彼の生い立ちと悲惨な生活を聞き、祖廟に留まって祈願すること三日、日蓮聖人のお告げにより、ハンセン病患者の救済を決心しました。綱脇上人は久遠寺から三門建設の大工小屋の木材を譲り受けて仮病室を建て、河原から13人の患者を収容しました。これが深敬園の始まりです。園の名前は、法華経の常不軽菩薩品(じょうふきょうぼさつほん※)にある「我深く汝等(なんだち)を敬ふ」というお経の一文に由来します。

※常不軽菩薩は自身が非難や迫害を受けても、相手を憎まず、逆に深く敬う(=常に軽んじない)仏様です。宮沢賢治が「雨ニモマケズ」の中で理想の人とした“テクノボー”のモデルといわれています。)



⑥

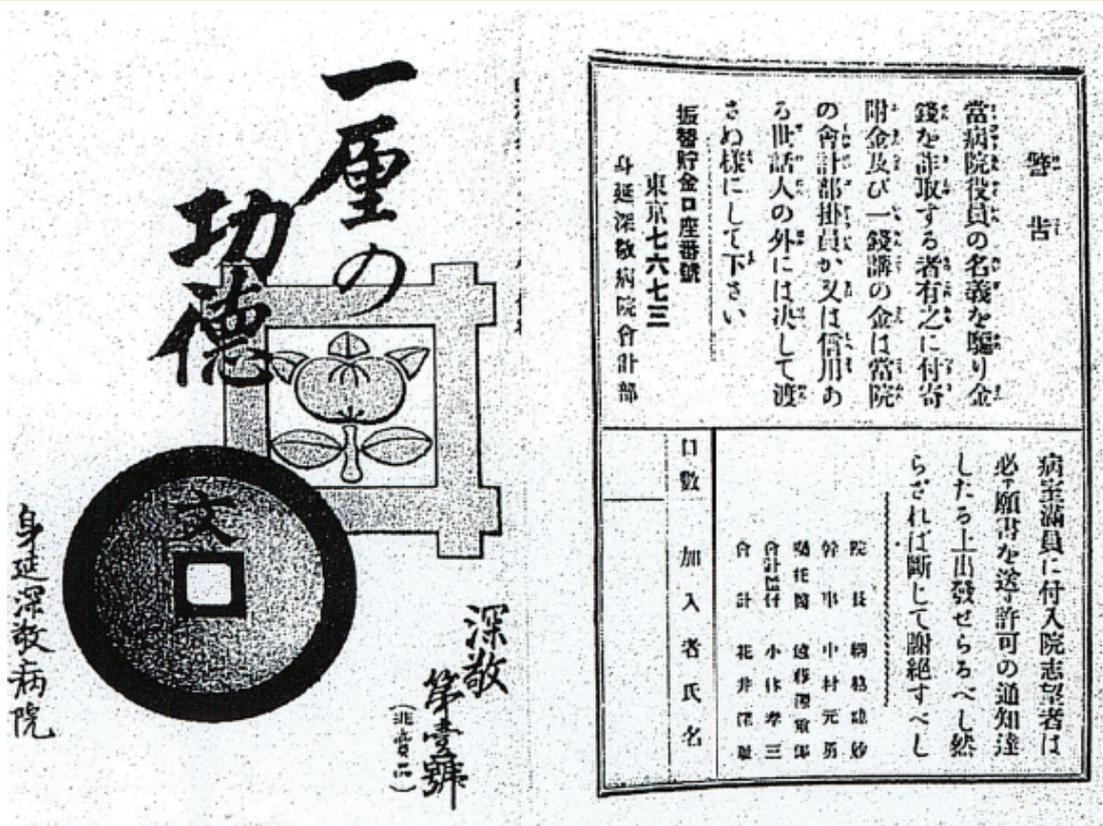
身延川河原に住むハンセン病患者
(写真中央やや左に立っているのが綱脇上人)

深敬園の経営

園の経営費は昭和26年(1951)に国の負担となるまで、皇室からのお恵みの他は、綱脇上人の私財と托鉢、篤志家や「十万一厘講(じゅうまんいちりんこう※)」の寄付で賄われていました。

園が始まって以来の入園者は1,436人、在園者は多い時で百人を越え、十畳部屋に四人で暮らすこともありました。

綱脇上人が昭和45年(1970)に亡くなってからは、娘の美智さんが園の経営を継ぎました。平成4年(1992)に最後の入園者16人が国立療養所へ転園し、ハンセン病療養所としての幕を閉じ、園の跡地は現在社会福祉法人深敬園の障害者施設「かじか寮」等となっています。



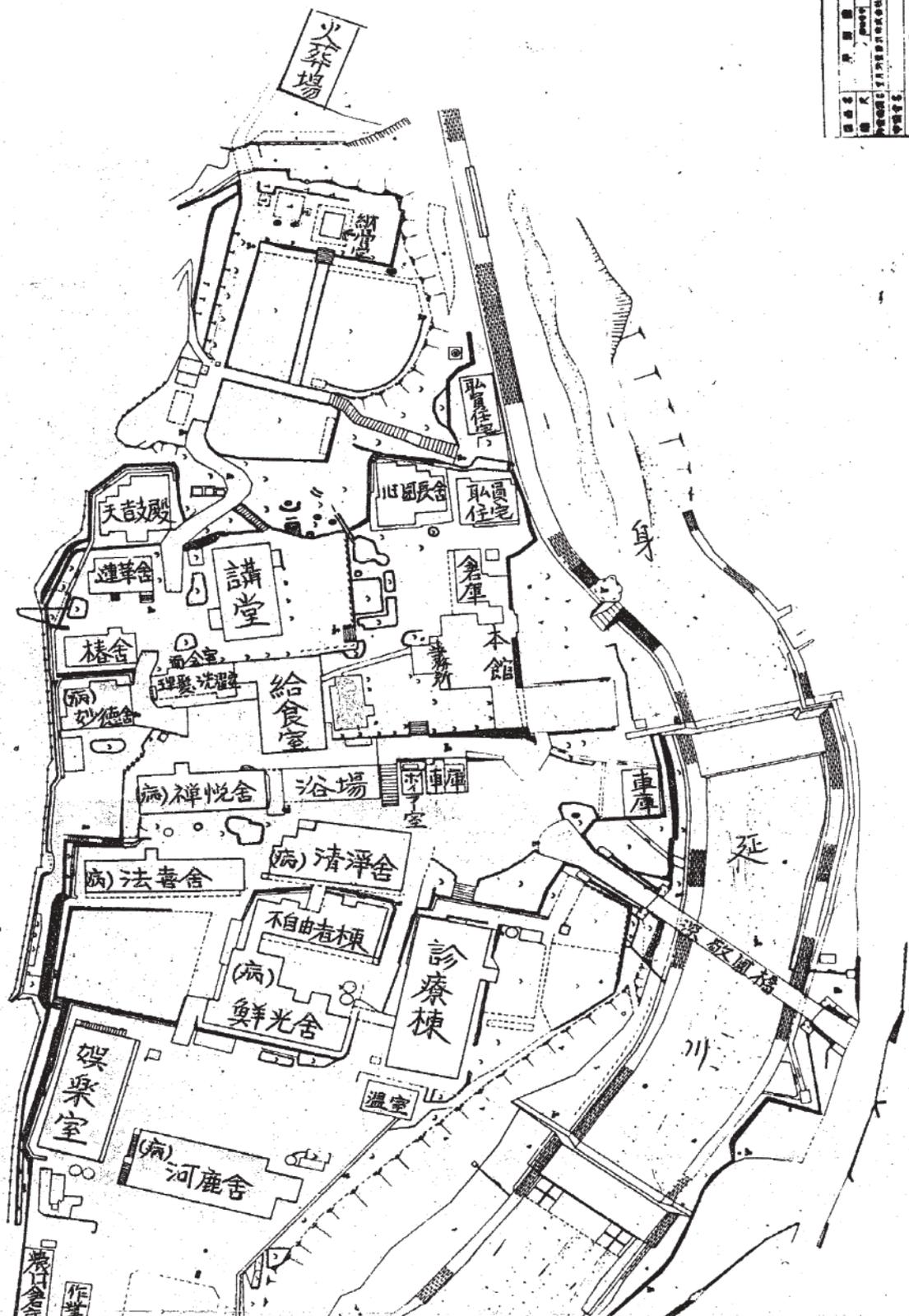
「十万一厘講」の寄付を募るために作られた冊子

※一日一厘(一月三錢、一年三十六錢)を三年間寄付してもらう(一口が一円八錢)という講。綱脇上人は十萬口を目標として運動を始め、三年目には一萬口を達成。

厘と錢は、一円未滿の当時の通貨で、一円=百錢=千厘となります。教員や警察官の初任給が月八円程であったので、一円を現在の価値にすると二万円程になります。



鷹取山



深敬園平面図
実測

火葬場があり、墓域の近くには入園者がお経をあげる天鼓殿(てんぐでん)が建っている。職員住宅には綱脇家の家族が暮らしていた。診療棟や不自由者棟がある場所から南側に昔は菜園や家畜舎があった。娯楽室には図書室や卓球台があり、二階には面会に来た家族等が寝泊まりできる部屋があった。禅悦舎には放送設備があって、自治会長が入園者に様々なお知らせをしていた。本館(事務所)南側のボイラー室・車庫の上にはサルを飼う檻があり、多い時には5匹程飼われていた。門前町の子供なども猿を見に来ていた。

⑧ 深敬園平面図(1981年に作成された図)



講堂 明治41年(1908)建設



火葬場(所) 昭和38年(1963)建設



1907年~1973年に亡くなった入園者の墓石



釈迦堂前の慰霊塔 園で亡くなった者と綱脇家親族288名のお骨が合葬され、銅板に名前と戒名が刻まれている。



貞明皇后御歌碑
昭和11年(1936)建立
「つれづれの友となりても慰めよ
行くことかたき われにかはりて」



綱脇龍妙上人胸像
昭和48年(1973)建立



療養所時代の様々な文書資料
(入園者名簿・寄付台帳・看護日誌・事務日誌 等)



綱脇龍妙上人の墓石
昭和30年(1955)深敬園創立50周年を記念して在園者一同が
建立。正面に「深敬」、側面に上人が詠んだ歌が刻まれている。
「鷲の山 ころろにかかる雲もなし
さやかに照す 有明の月」

今、私たちにできること・・・

現在日本ではハンセン病を発症する人は年間数人程ですが、世界では平成25年(2013)時点で18万人以上の患者が報告されています。また、ハンセン病から回復していても、元患者やその家族に対する差別や偏見は完全になくなっていません。現代の社会の中にはこの病気だけでなく、人種・民族・国籍・性別・障害など様々な差別があります。

今、そしてこれからの未来をしっかりと生きていくため、一人ひとりが人権尊重の精神を持つことが大切です。一人の宗教家として差別や偏見から目をそむけず、社会的に弱い人々の救済に生涯を捧げた綱脇上人。その勇気ある生きた方を学び、私たちに今何ができるのか、ぜひ皆さんで考えてみてください。

綱脇上人やハンセン病のことをもっと学びたい！そんな君におすすめの本じゃ。

皆人の心に咲きし
花はちりても種はのこらん
白蓮花



お問い合わせ先：身延町教育委員会 生涯学習課 文化財担当
住所 身延町常葉1025 電話 0556-20-3017
写真資料提供：深敬園 発行年月日：令和2年(2020)7月27日
令和7年(2025)1月17日 改定